

ACE だより

特定非営利活動法人アジア地域福祉と交流の会 (Asia Community Service & Exchange)

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 1-30-9 社会福祉法人「嬉泉」内

Tel 03-3426-2323 Fax 03-3706-7242 郵便振替番号 00180-3-357538

http://ace-jps.com/ E-mail:kenkn@tm.net.my(ケンケン) akeniu@tm.net.my(アケニウ)

みなさまに支えていただいて 15 年

中澤 健

「アジア地域福祉と交流の会」(ACE)が、東京・水道橋の YMCA アジア青少年センターで第 1 回総会を開催してから 15 年が経ちました。支え続けて下さった皆様に心からお礼を申し上げます。瞬く間という感じもしますが、随分いろいろなことがあったなあと感じ深くも思います。そして何より強く思うことは、一人一人の思いが集まるといふのは、すごい力になるということです。

活動してきた場所はマレーシア、ペナン島(ACS)とボルネオ島(RCS)です。1997 年にペナンの街中の住宅地に民家を借り、障害幼児の療育活動が始まりました。日本では本会が会員募集を始めました。それまでの調査段階から清水基金、その後は三菱財団、日本財団、在マレーシアの日本大使館も応援して下さいました。社会福祉法人嬉泉は快く本部事務局を置かせて下さいました。こうした官民の個人や団体の力が集まって、ペナンの街からペナンの村での活動へと広げ、さらに田舎に車で療育(遊び)を運ぶ活動へと進むことが出来ました。

2003 年、ペナンの活動を地元の人たちに託して、私たちはボルネオ島に移り、やがてパワンという電気もない地域と出会い、ひとりの重い障害をもつ少女と巡り会ったことがきっかけで、村人や日本からの助っ人と一緒に「デイセンター・ムヒバ」を建設したのです。今、運営を始めて5年目を迎え、ようやく基礎が固まってきたところです。そしてこれから、もし可能であれば、ボルネオ「RCS」の「R」である、Rajang川の上流の、交通手段はボートだけという地域での活動を目指しています…。

この間に考えてきたことを、少しだけ述べさせていたいただきたいと思います。

自然の水の流れのように、活動は街の住宅地から田舎へ、より奥地へと向かってきました。それは、自分の力で幸せが掴みにくい人への支援をすることが福祉の活動であれば、よりサービスの受け難い人たちの所に向かうのが本来の福祉の方向だと考えたからです。日頃あまり話題にも上らない人たちの所に、笑いや人との触れ合い、創る楽しさをボートで運べたらと思うのです。これはNGO(民間)の役割だと思います。

出来たらそこの住民の人たちの参加で実現したいと思っています。地域福祉は地域住民と共にあるのは当然ですが、参加するだけでなく、企画し自分たちで行うことで、新しい地域社会が創られると思うからです。新しいとは、弱い人を大切にするという意味です。地域福祉は、安定した心の通う新しい地域創りだと思います。この会が向かってゆく、平和への道筋です。

20余年前、クアラルンプールのキリスト教系福祉団体で働いていたアイナさんが1年間日本で勉強しました。そのアイナさんと出会えたことは、私にとって大きなことでした。故丸山一郎さんのおかげです。現在、ペナンの「ACS」を切り盛りするアイナさんが、ACEの15周年を機に総会に来て講演して下さいます。私は、そのことを心から感謝すると共に、この活動を支え続けて下さった日本の皆さん、石井哲夫先生を初め諸先輩方、同世代の皆さん、パワーたっぷりの若い方々に、心からお礼を申し上げたいと思います。

一人一人の力の結集といふのは、本当にすごいパワーを生むものものだと、改めて強く感じております。

ペナン ACS のアイナさんが 6 月の総会で講演します！
平成 24 年度 特定非営利活動法人アジア地域福祉と交流の会
通常総会のご案内

日本は、思いがけない長い冬でしたが、ようやく春が巡ってきたようですね。冬と夏との間に、以前以上の温度差があるようです。私たちがおりますマレーシアのボルネオでも、気象は異常のようです。もうとっくに乾季が来て良いはずなのに、未だに雨季が続いて毎日のように激しい雨が降っています。2月から3月はお米の収穫の時期なので、イバン族の人たちは毎日空を見上げて不安顔でした。ようやく晴れ間を見つけて稲穂を刈ったようですが。

どうやら世界中の気象が異常のようですね。地球の内部でも外側でも何かの異変が起こっているようです。自然の変化として受け入れて良い種類のものなのか、人間がどうにかしないとイケないものなのか、誰も教えてくれません。こういう時代を私たちは何を指して、どこに向かって歩いたら良いのでしょうか。

こうした中で、第15回を迎えた ACE 総会は特別の集いとすることにしました。

マレーシアのペナンからアイナさん (Ms. Khor Ai-Na) をお迎えします。彼女がいて、ペナン ACS が出来ました。当初、ACS は何を指したか、アイナさんはどんな願いを託したか、ペナンだけでなくマレーシア全国を視野に活動をしているアイナさんに、マレーシアの知的障害の人たちの支援のこれから、彼女の夢などについて、話していただきたいと思います。

是非、ご参集下さい。皆様にお会いできますことを、楽しみにしております。

1. 日 時 2012年6月23日(土)

午後1時30分 ~ 6時45分 (受付は、12時30分から)

2. 会 場

南青山会館 (農林水産省共済組合)

東京都港区南青山5-7-10 (Tel 03-3408-1365)

3. 日程と内容

1) 総会 (13:30~15:00)

・開会の挨拶 (理事長)

・役員改選

・平成23年度事業報告及び収支決算報告

・平成24年度事業計画及び収支予算案

・その他

2) 現地からの報告 (15:10 ~ 16:10)

ペナン (内海 明美)

サラワク (中澤 和代)

3) 講演「ACEと共に歩んだペナンACS」

~“ACS”は何を指したか、何処に向かうのか~

Ms. コ・アイナ (通訳 内海明美)

4) ティー懇親会 (17:45 ~ 18:45)

4. 参加費

1人 2,500円

参加費は、当日会場受付にて徴収いたします。(会員・非会員、同額)

*南青山会館は、東京の地下鉄銀座線、千代田線、半蔵門線〔表参道〕駅下車 B3 の出口から徒歩4分です。

第12回 ACE ワークキャンプ

実施場所 マレーシアボルネオ島シブ郡
バワン地区
実施期日 2012年2月20日～26日
実施内容 Muhhibahで作業(ゴトンロヨン体験)
討論、ロングハウス体験、交流
参加人員 8名



(フェンスの杭を打ち込む場面)

☆☆☆☆☆☆☆☆

ワークキャンプの思い出
明治大学 今井 学

僕がこのワークキャンプに参加しようと思ったのは海外ワークキャンプに興味を持ったのと、障害を持つ人と触れあってみたかったからです。

バワンの地は日本よりも空がとても近いです。自然も雄大に広がっていて、これからここで活動するのかなと思うとワクワクしました。到着し、Muhhibahやロングハウスに行くと、みなさんがあたたかく僕たちを迎えてくれて、まるで昔からの友達との再会や実家に帰ってきたかのようなようでした。

Muhhibahのみんなはいつもニコニコ笑顔で楽しく過ごしていて、全く壁を感じさせませんでした。普通の人となんら変わりなくて僕は驚きました。言葉は通じなくてもハートで繋がって、一緒に遊んだり笑ったり毎日が楽しくて仕方なかったです。

ロングハウスの人たちはいつも気さくに声をかけてくれました。会う度にあいさつや何

気ない会話を交わし、夜はごはんを食べてからみんなで通路に出てお酒を飲んだりワイワイおはなししたり。日本ではどこかに置いてきてしまった光景がありました。

ワークでは外でも遊べるようにフェンスの設置、丘の上のベンチ作り、果樹園作りをしました。Gotang Rayongという地域の人と一緒にするワークの日にはものすごい勢いで作業が終わっていききました。自分のできる部分をそれぞれが作業してお互いに助け合っていました。作業が終わればBBQとお酒を片手に語り合いました。地域と人とのつながりについて

も学ぶことができました。

キャンプの中で一番の思い出はロングハウスにいる男の子と出会ったことです。はじめは話しかけても反応してくれなかったけど、だんだんと心を開いてくれて声をかけると笑顔で寄ってきてくれるよ

うになりました。一緒に走って遊んだり、絵本を持ってきて僕にイバン語を教えてくれました。子供が大好きな僕にとって彼は弟のような存在になっていました。キャンパーとの出会いも刺激的でした。さまざまな価値観や考え方を持つ人と毎晩、討論する中で新たな考えが生まれたり、一緒に汗を流すことで多くの絆やつながりができました。

たくさんの楽しい思い出があって全部は語りきれませんが、バワンの地はささやかなことに幸せを感じられる素晴らしい場所です。行くことを迷っている人がいたら自信を持ってオススメしますよ。ぜひ一度行ってみてください！次に行くときまでにはもっとお酒が飲めるようになって帰りますね！

健さん、和代さん、土屋さんをはじめ、Muhhibahやロングハウスのみなさん、キャンパーのみんな、ありがとうございました。



第12回 ACE ワークキャンプ (キャンパーの感想)



☆☆☆☆☆☆☆☆

たくさんの感動をありがとう！

芝浦工業大学 森本健介

今回初めての参加であること、専攻が福祉関係でないことなどから不安を抱きながら参加を決意したことを覚えています。しかし実際に参加してみると、

そんな不安なんか吹き飛ばすくらいたくさんの笑顔に出会え、日々充実を感じながら過ごすことができました。

ムヒバのみんなは各々ができていることをしていて、互いに手を取り合っているのが印象的でした。また、何に対しても一所懸命で常に笑顔でいる様子は一緒にいて「素敵だな、自分も頑張らなきゃ」と思えるほどでした。ムヒバのスタッフやみんなとの出会いは、障がい者や施設といったものについて今一度考えさせられるものでした。

ロングハウスでの生活、イバンのみなさんの生き方は非常に魅力的で日本でも似た生活ができないものかと思うほどでした。ロングハウスは長い共同の廊下がコミュニティスペースとなっていて、そこで一緒に子供たちと遊んでいたりと、お酒を飲んだりしていると家族や人のつながり・あたたかさを強く感じました。また、ロングハウス間のつながりも強く、ゴトンロヨンでは必要なものを作るのに互いのロングハウスを行き来し助け合っているとのことで、今回もムヒバにフェンスを作るのに多くの人が集まっていてボランティアや仕事とは違う働く様を見ること、一緒に体験することができました。

イバンのみなさんやムヒバのみんなと過ごす時間は、本当に刺激的で楽しいものでした。それはただ非日常であることから感じるものではなく、そこに人のあたたかさやつながりがあったからだと思います。健さんと和代さん

をはじめキャンパーやムヒバのみんな、ロングハウスの皆さんと過ごした一週間は非常に貴重で、今まで過ごしたどの一週間よりも濃密で刺激的なものでした。帰るときには本当にまだまだ居たくて、「飛行機が離陸しなければまだ残れる」と思うほどでした。こんな素敵な一週間を過ごさせていただき皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

また絶対みんなに会いに、植えた果物を食べに行きます。次会う時に少しでも成長した自分が見せられるように、この一週間の思い出を活力に日本で日々精進していきたいと思っています。本当にたくさんの感動をありがとう。

Terima Kasih

☆☆☆☆☆☆☆☆

二度目のワークキャンプを終えて

日本社会事業大学

竹森菜摘

一番に思い出するのは、彼らの笑顔です。私は彼らの作り出すあの幸せあふれる空間が大好きです。あんな素敵な空間が、日本中に、世界中に広がってほしいと願っています。



そして私はそのきっかけを作り出したい、という目標ができました。

みんなが心から笑っていただける
互いに必要とされ、必要としている
一人ひとりがありのままに
人と人、地域がゆるやかに繋がっている

ムヒバはそういう、私の理想の場所です。本当にこの場所に出会えてよかった。この場所をもっと人に伝えたい、こんな場所をもっと広げたい、こういう思いからまた人が繋がっていくことも知りました。

ムヒバのみんなとのふれあいやロングハウスでの生活は、ここでしか感じられないことがたくさんあります。限りない自然の中で自由にいられることが、私に夢を与え可能性を広げてくれます。だから私は何度でもここに

来たいです。そしてどんなにたくさん年を重ね、経験を重ねても、今と同じように純粋に幸せを感じられる心を持ち続けたいです。

今回出会えたみなさん、前回に引き続きお世話になった健さん、和代さん、土屋さん、本当にありがとうございました。また素敵な思い出が増えました。ベンチでの満天の星空、みんなで植えた果実の木をまた必ず見に来ます。いつまでもムヒバがあり続けることを心から願っています。

☆☆☆☆☆☆☆☆

ワークキャンプを終えて

日本社会事業大学

蝦名真弓



2月20日～26日で行われた7日間のワークキャンプ。ワークキャンプが終わり、早何日経つのだろうか…。日本に帰った今、私は毎日のようにワークキャンプのことを考えています。キャンプでみんなと過ごした写真を見て、

とても幸せな気分になり、そして急に寂しくなり「Malaysiaに帰りたい」と毎日、毎日心の中でもう一人の自分が叫んでいます。それは、心暖かい中澤さんご夫婦、Muhhibahのメンバー、ロングハウスのみなさんに逢える場所だからこそ毎日その場所に帰りたいと思ってしまうのです。

このワークキャンプを通して私は無意識に私自身が忘れてしまっていることに気づかされました。それは、「笑顔」、「人のつながり」、そして「人の温かさ」などです。そのことに改めて気づかされました。

初めてMuhhibahを訪れた時にMuhhibahのメンバーは、笑顔で快く迎え入れてくれたことを今でも鮮明に覚えています。私は今まで日本の障害者施設を訪ねたりしましたが、みんなが笑顔で受け入れてくれたことはない印象が強く、笑顔で迎えられた時には驚きの方が大きかったです。そして、ワークキャンプを

進めていくと、Muhhibahメンバーの自然な優しさが色々な場面で伝わってきました。メンバー同士での助け合いや、メンバーと一緒にペンキ塗りをした時に、手に付いたペンキがなかなか落ちないのを見て、言葉は通じないのに空気で感じ取り、何も言わずに私の手を片方ずつ洗ってくれた彼らの優しさに心が温められていました。

ロングハウスのみなさんやゴトンロヨンでの作業は、地域の人たちのつながりの強さにビックリしました。そのつながりは、ワークを通じて、もの凄く伝わってきました。自分ができることを出来る範囲で行いながら、息の合った作業に本当に人とのつながりを意識していないで作り上げていることが私には初めて見る光景だったので驚きとまた心が温まり、作業がとても楽しく行えました。

そして、何よりもワークキャンプを共に過ごしたメンバーとの出会いもとても私にとって大切な出会いでした。夜、みんなで輪になり行った討論会は私の中で今まで考えられなかった考え方や価値観など本当に勉強になることだらけでした。また、このメンバーで、たくさん話をしたいと思っています。

こうして、私自身が私らしくワークキャンプを行えたのも中澤さん夫婦を初め、土屋さん、Muhhibahのメンバー、ロングハウスのみなさん、ゴトンロヨンのみなさん、ワークキャンプのメンバーのお陰だと思っています。素敵な感動と思い出をありがとうございました。

あの広い空と星空、そしてゆっくりとした時の流れの中で感じられる人の温かさがある素敵な場所に必ずまた逢いに行きます！そして、自分が植えた木にも逢いに行きます！

最後に、Terima kasih & Junpa lagi!

☆☆☆☆☆☆☆☆

ワークキャンプを通して感ずること

YMCA 米子医療福祉専門学校

長谷川 沙紀

ワークキャンプを通して感じたことは言葉が通じること、気持ちが分かることって大事ななことです。



「ゴ下ンヨロンやロ
ングハウスの皆さん
の言葉を聞いて「あ
っ、こんなことを言
いたいのかな？」と
気づけると嬉し
かったです。ムヒバで「S
aki!」と声を掛けて
もらえること、「もう
いっば〜い？」と、

おかわりをすすめられることに私はここに
いていいんだと感じられました。

今まで「言わなくても分かるでしょ」と思
って過ごしていました。しかし覚えたイバン
語を使ってみて、分かってもらえたとき「言
って良かった〜！」と嬉しかったです。初対
面であっても誰もが笑顔で接して下さいま
した。中澤さんご夫妻からサラワクの自然が笑
顔を引き出していることを学びました。確か
にあのきれいな空、星、美味しい果物など
などに会ったとき私は笑顔でした。笑顔の人
が増えていくから過ごしやすくなるんだら
うなあとと思います。

毎日、笑顔になれるように心がけたいです。
またワークキャンプに行ける日を楽しみにし
ています。それまでに私が植えたレモンはど
れぐらい大きくなっているのでしょうか…?

貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

☆☆☆☆☆☆☆☆

ワークキャンプに参加して

介護福祉士

伊藤可菜

2012年2月20日から26日までワークキ
ャンプに参加しました。前回、2008年11月
に読売海外ボランティア派遣に参加させても
らい、今回は3年ぶり2回目の参加となりま
した。3年前の活動がとても楽しく感動をた
くさんもらい、また絶対に戻ってくる！と心
に決め、3年越しの念願のワークキャンプ！
3年間の間にたくさんのキャンパーが訪れて
いるから、自分のことは覚えていないかなと
少し不安もありましたが、ロングハウスに着
いて1番にポーリンを発見！名前はもちろ

ん、前に話をした内容も覚えてくれていて、
それがとってもとっても嬉しかったです。一
緒に遊んだ子どもたち
も、お兄さんお姉さん
になっていて、そんな
ことにも感動。

今回のワークは、丘
の東屋のベンチ作り。
その周りに果樹を植える。
フェンスを設置す
ること。実は、3年前のワークで丘へ続く階
段・道をつくりました。その時、健さんが「こ
こに東屋をつくりたいと思っているんだ」と
お話しをされていたことが3年の間に現実
になっていて感動！しかも今回のワークの現場
はその丘！東屋の先の草を刈っていると、不
思議と前回の作業の続きのような気持ちにな
っていました。

汗をかきながらの作業はやっぱり気持ちが
良くて、作業のあとのお酒もあたりまえにお
いしい！植えた苗木に自分の名前を付けるな
んて、また来なさいよ！大きくなってるの見
に来なさいよ！って言っているようなもので
すよね！もおずるい！こうやってリピーター
を増やしていく作戦ですか！絶対にまた行く
に決まっています。(笑)

私はキャンプに参加する前まで、仕事のこ
とでモヤモヤ悩んでいたのですが、帰る頃
にはなぜか悩んでいたことが嘘のようで、重た
かったものがずっと下りた感じ。

毎日の夕食後の討論も、難しいテーマもあ
ったけど、学生のみなさん、人生の先輩方と
の話し合いは気づかされることも多くて刺激
的でした。ムヒバのメンバー、ロングハウスの
みなさん、サラワクの自然、触れるもの全
部が刺激。じわじわとパワーがみなぎって
くるというか、不思議な感覚です。

日本に戻ってきて数週間。通常の生活に戻
ってきていますが、キャンプに参加する前
の心のモヤモヤは消えているし、心が健康にな
ったような気がします。やっぱり参加して良
かったなど、ただただそればかりです。今
度も参加する機会を与えてくださった中澤健



さん・和代さん、一緒に作業をしたワークキャンプ 12 回キャンパーのみなさん、沢山の笑顔くれたイバンのみなさん、全てのみなさんに心から感謝です！トアックの材料を手に入れたので作ります！上手にできますように！次はまだ見ぬ旦那さんを連れてサラワクに帰れますように！わたしは再びサラワクの地を踏むでしょう！ありがとうございました！！！！

☆☆☆☆☆☆☆☆

第12回ワークキャンプに参加して

榎毎日リネンサプライ

佐藤 高生



今回はムヒバセンター前広場のフェンス作成とセンター横の丘の上で植樹（フルーツの苗）が主な仕事。思えば、最初の視察見学（ムヒバの造成作業）から見てきましたが、2年ぶりのムヒバとロングハウスの人々に接し、懐かしさを感じ、充実したセンター利用者と職員の働きぶりに感動しました。皆さまの笑顔、笑顔で毎日過ごしている姿を見ると、私も心がなごみ、うきうきした気持ちの一週間。あっという間の時間でした。また、夕食後の討論にて若人（主に学生諸君）が夢と希望の中、社会に巣立つ不安や迷いの意見に接し、話がはずみましたが、皆さまの未来が楽しく明るい充実した人生になるよう熱望し期待しています。

いつの日か、ムヒバのメンバー、ロングハウスの方々、ワークキャンプに携わった人々、中澤夫婦ともども、あの山頂小屋にて思い出話に花を咲かせ、フルーツを収穫しながら酒でも酌み交わしたいものですね。

☆☆☆☆☆☆☆☆

第12回ワークキャンプに参加して

川崎医療福祉大学

奥田 彩芽

今回で2回目の参加だったワークキャンプ。一年ぶりに訪問したロングハウスやムヒバの人たちは私のことを覚えてくれて、とても感動しました。

ここで私がいつも感じることは本当の豊かさです。豊かであるという事は、決してお金で得られるものではないと気づかされます。ロングハウスの人のあたたかさ。ゴトンロヨンを中心として結ばれる集落を超えた絆。日本ではシステムやマニ



ュアルに沿った人間関係を自分で作ってしまっていたのだと実感しました。考えるのではなく、感じる。ありのままこそ、人って素晴らしいのだと感じました。暖かい笑顔に囲まれ、帰って見返した写真に日本では決して見せたことのない笑顔を自分がしていたことに驚かされます。

そこでの生活は全てが自分でつくるもの。家や食べ物だけでなく、空間もその一つだと思います。CDやテレビから流れる音ではなく、ここでの音は、話し声や自分達で奏でる音楽、自然の音。豊かな音と人につつまれるそんな場所だと思いました。ここでの生活をいつも心に刻み、日本にも広げていきたいと思っています。

こんなに素晴らしい経験が人生の中であるのだ、と実感したワークキャンプでした。イバンの人だけでなく、健さん、和代さん、そしてキャンパーのみんなともファミリーのように感じられるこのキャンプ。もう一度参加したいと思います。それに向けてイバン語を勉強したいと思います。このような機会を与えていただいた中澤夫妻に心からの感謝を。

☆☆☆☆☆☆☆☆

ワークキャンプが無事に終わるとホッとします。同時に、寂しさに襲われます。これまで、若者を中心に様々な年齢層の参加者総数は87人になります。この延87人と地元の人たちの労働で“Muhhibah”が出来上がってきました。Muhhibahは、みんなの汗と笑いの結晶です。感謝しています。（中澤 健）

◆◆◆◆ ベナンACS近況 ◆◆◆◆

ACSスタッフの奮闘と広がり

内海 明美



(Lee Soo Hoon)

Ms Lee Soo Hoon, ベナン ACS の Assistant Director です。彼女はマラヤ大学卒で新聞社、銀行で働いた経験がありました。

ACS の募集に応募し、面接時に、ACS の給料はいままでの半額しか払えないことを伝えると、母親と相談するということでしたが、その母親を説き伏せ ACS に就職したのが 2000 年 9 月でした。母親に連れられて USM (マレーシア科学大学) に出かけていた幼いころ、その母の仕事を待つ間、黒板に先生のまねをして遊んでいたときから教師になることが夢だったそうです。障害児に関して全く知らないで ACS の早期療育プログラムの先生になったそうですが、先生になれると言うことで興奮したそうです。彼女は大変な努力家であり、子供が大好きでこの仕事にのめりこんでいきました。日

本、オーストラリアで研修の機会を得、帰国後の実践活動に学んだことを取り入れ、早期療育プログラムをさらにふくらませていきました。障害児との出会いが彼女の学びに拍車をかけ、努力が加わり、物事を深く相対的に見る視野の広さで ACS の Assistant Director となりました。経験、知識、そして保護者からの信頼も増していきました。次のステップとして 2007 年 European commission のスカラシップを受け、イギリス、オランダ、チェコで障害児のインクルーシブ教育を学び、1 年後優秀な成績で修士コースを終了、ACS に復帰しましたが、その時、地域の幼稚園、保育園に通う障害児のための巡回支援をしたいという目的を持っていました。そして今年 USM (マレーシア科学大学) の博士課程で障害児のインクルーシブ教育を学ぶことになりました。マレーシアの幼稚園、保育園の障害児の受け入れ状況などを調査する予定です。ACS での障害児との出会いから多くのことを学んだと言います。将来、マレーシアの障害児教育発展のために知識、経験を生かしたいと彼女は話しています。

◆◆◆Muhhbah トピックス◆◆◆

◎去年8月から“Muhhbah”のケアワーカーになった Josephine Ak Bubong がこの2月12日に無事出産しました。赤ちゃんは女の子で、名前は Rachel Susanti というそうです。帝王切開で術後が一瞬心配でしたが、少しずつ回復はしているようです。4 月半ばには元気に復帰してくれるよう祈っています。

◎“Muhhbah”の門の前の道路上に、大きな“Pusat Pemulihan Dalam Komuniti Muhhbah”のサインボードが立ちました。“CBRセンター「ムヒバ」の意味です。CBRは、Community Based Rehabilitation”です。

◎雨季の大雨続きで、門を入ってからの道路が再び大きく崩れ落ちました。現在、新しい道路を造るべく準備を進めています。シブの業者が協力してくれています。

◆◆◆編集後記◆◆◆

2006年の1月から、Bawanの山を切り崩し、約1エーカーの土地を造成できたのが5月。同じ年の8月、まだ、RCSという団体が政府の認証を受けていない段階で、地元住民と日本から11名のキャンパー参加により、第1回のワークキャンプが実施されました。Iban族特有のドラを設置し、おばさん達がドンドンとジャングルに音を響かせながら、大勢の男達のかげ声と共にMuhhbahセンターの柱が立ち上がりました。あれから、5年半。人々の力の結集が、Muhhbahセンターの今と、障害を持つ彼らの特上の笑顔を造り出していることを思うと感無量です。今号、初めてのワークキャンプ登場ですが、今までご参加された多くの皆様にご心より御礼申し上げます。(中澤 和代)